



第21号

発行 加古川市教育委員会
編集 加古川市文化財審議委員会
加古川市加古川町北在家23の1

TEL ④ 1151

鶴林寺の内堀

近く完成

財団法人日本宝くじ協会から寄贈を受けて建設されている鶴林寺内堀は、建設業者の誠意と天候に恵まれたおかげで、着々と工事が進捗し、計画より早く完成する予定です。

昨年8月19日夜中に放火（犯人は逮捕された）によって、鶴林寺のシンボルともいえる三重塔（県指定重要文化財）の内部を焼失し、現在では素屋根だけをかけて復旧を待っています。これまで開放的で刀田の太子さんとして市民に親しまれ、どこからでも自由に出入りできることが寺と市民のつながりを深め、そのことを誇りにさえ感じていましたが、この事件が起きてから種々検討した結果、多数の国宝や重要文化財の建物、美術工芸品を保有する鶴林寺は、この際人の出入りを規制し、貴重な文化財をもっときびしく保護していく必要がある、との結論に達し、内堀建設につい



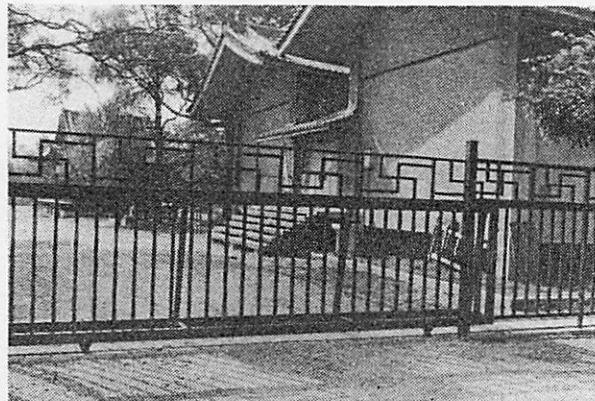
完成した鶴林寺内堀

て検討を加えていました。

しかしながら、三重塔の復旧を目前にひかえた鶴林寺には、とても内堀建設にまで手がまわり兼ねていたところ、地元選出の代議士や県会議員等のご援助によって財団法人日本宝くじ協会が、国宝や重要文化財保護のための内堀建設ならと、全面的に寄付してくれることになったのです。

そして7月10日から、宮宅建設KKの手によって工事が行なわれています。幸い業者が鶴林寺浄心院の塙家であり、誠心誠意工事にあたっていただき、それに天候も幸いして工事の進行が予想以上に順調に進捗し、計画より早く完成する運びになっています。

この堀は、境内地の東と西側に、鶴林寺にふさわしい築地堀（高さ2.25m、芯はブロックで2重に積み屋根は日本瓦葺）を建設し、仁王門の両脇に脇門を設け、裏の方にも裏門を設けて、特に夜間の人の出入りを一切規制して、二度と三重塔のような災害が起らないよう努力していくことにしています。



完成した鶴林寺の裏門

三重塔の調査を実施

鶴林寺の三重塔は、昨年8月19日放火により内部を焼失し、その後素屋根をかけて復旧される日を待っているわけですが、何といっても完全に復旧しようとすれば莫大な経費が必要です。

現在のところ、県の重要文化財に指定されていますが、現状のままで復旧工事を行なうとすれば、県、市ならびに鶴林寺が、経費をそれぞれ $\frac{1}{3}$ づつ負担しなければならず、現在の財政状態ではとても完全復旧は望めそうにありません。

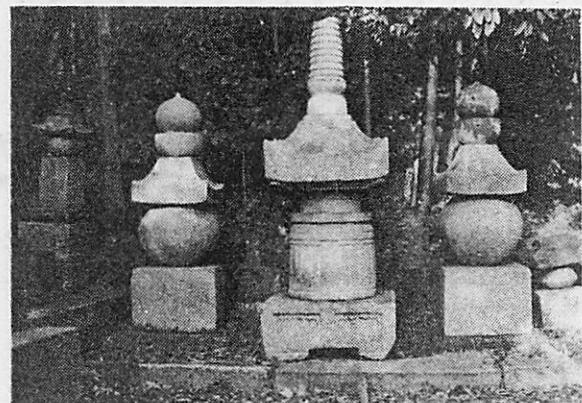
この三重塔は、室町時代それも初期に建築されたと考えられていますが、江戸時代後期、文政年間に一度建て替えられています。その時使用に堪える古材はそのまま使われていますが、いたんだところは新材に取り替えられてしまっているので、室町建築とはいっても、はっきりこの箇所が室町時代のものである、という資料が残っていません。そのため、これまで何回となく国的重要文化財指定について陳情してきましたが、今のところ指定されるところまでいっておりません。

そこで、もっと詳細な調査を実施し、くわしい資料をつけて再度国的重要文化財指定について陳情することになり、年内に調査を実施することになりました。

この調査は、部材毎に材質ならびに新旧の違いを色分けし、実測図をつくり、一目で室町時代の建築であるということがわかるようにしようとするものです。

そしてこの調査資料をつけて、国指定について強力に陳情しようと考えています。

市民の皆さん、鶴林寺のシンボル、いや加古川市のシンボルとも考えられているこの三重塔が、再び美しい姿を私たちの目の前に見せてくれる日が、1日も早くくるようご協力よろしくお願ひいたします。



県重文の常楽寺石造宝塔、五輪塔

11月は

文化財保護強調月間です

文化財は、わが国の歴史、文化等の正しい理解のため欠くことのできないものであり、且つ、将来の文化的向上発展の基礎をなすもので、このことはとりもなおさず人間の心を豊かにし、精神を向上させるものであり、人間形成の上で必要なものであります。

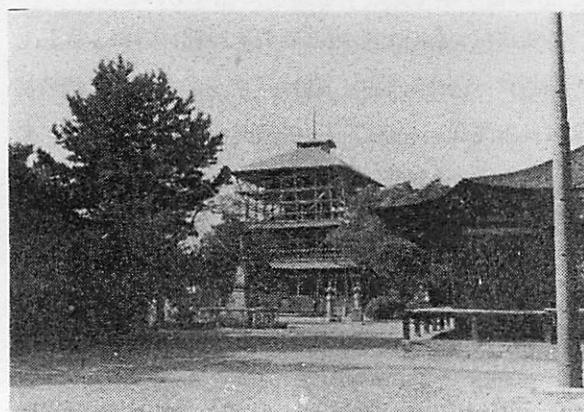
こうした文化財は、一つ一つがその土地の歴史と風土の中で育てられてきたものです。したがってその土地と切り離しては文化財はあり得ず、その意味でも、その土地の文化財は、地域住民の手によって守らなければなりません。

文化財を日本人の誇りとして、また心のふるさととして愛護し、保存していくことが私たちの責務と考えられます。

国では11月1日から1週間を文化財保護強調週間とし、県では11月中を文化財保護強調月間と定めて、文化財保護に関する各種の事業を実施し、文化財保護の啓蒙宣伝につとめています。

加古川市でもこの月間にちなみ、別記の文化財教室を開設したり、文化財講演会の開催、文化財保護表示板の設置等の事業を計画しております。

市民の方々も、この月間を契機として、国民的財産である文化財の保護に認識をあらたにされ、より一層ご協力たまわりますようお願いいたします。



素屋根に覆われた三重塔

砂部遺跡の範囲確認調査

市内東神吉町砂部地区は、日岡神社社記によれば、神武天皇がご東征のとき、天皇をおたすけした伊狹狹辺命（いさきべのみこと）が住んでいたところといわれています。

この地区で、昭和40年ごろから弥生時代前期の遺跡が存在することが確認されていました。隣接する西井ノ口地区では、昭和41年加古川バイパスの建設工事によって弥生時代の遺構や遺品が発見され、42年の夏に実施した発掘調査によって、貯蔵穴や溝などの遺構、木の鍬や土器などの遺品が発見されたことによって、弥生時代前期（約2,200年前）の遺跡であることが確認されました。更に、昭和49年から51年にかけて砂部地区で行なわれた、工業用水道管布設工事に先がけての発掘調査で、弥生時代前期から後期、古墳時代から平安時代にわたる遺跡であることが確認されました。

しかしこれらの調査は、あくまでもそれぞれの工事に先がけての調査ですから、工事の範囲内だけに限られているため、遺跡全体の分布状態はわかつておりません。

そこで、県、市教育委員会が協議のうえ、将来の地域発展のためにも、この際遺跡の範囲を確認し、その保存対策について検討しておく必要があるとの結論に達し、昭和51年度から国、県の補助金の交付を受けて3年計画で遺跡の範囲確認調査を実施することになり、51年度においては、すでに計画どおり一部調査を実施いたしました。

本年度も、土地所有者の方々にご承諾をいただき、年末から引き続き調査を実施することにしております。土地所有者の皆様方には、何かとご迷惑をおかけ

するわけですが、事情ご理解いただきご協力たまわりありがとうございます。

教育委員会としても、できるかぎり地元の方々にご迷惑がかからないように、最善の方法をつくして調査にのぞみたいと考えております。



文化財表示板の設置

文化財保護表示板の設置

市内には、現在わかっているだけで250基に近い埋蔵文化財、300基を越える石造遺品などの文化財が保存されています。これらの文化財は、地域の人々によく知られたものもあれば、近くにあってもその存在を知られずに、ひっそりとたたずみ、また地中に埋れているものもあります。

教育委員会では、これらの文化財を市民の皆さんにお知らせし、その存在を明らかにし、大切に保存していくかなければならないことを訴えると共に、その内容について案内し、史跡めぐり等のお役にたてたいと願って、例年30~40基の文化財保護表示板を設置しておりますが、本年も文化財保護強調月間にちなんで、古墳や石造遺品等に35基の表示板を設置することにしております。

秋の野山の散策やハイキングの途中、古墳や石仏に立てられた案内板を、またお寺の境内に残されている石塔などに立てられた案内板を参考にしながら楽しいひとときをお過しください。



調査中の砂部遺跡

“古代の播磨”

文化財講演会開催

祖先の貴重な文化遺産であり、国民的財産である文化財を保護し、子孫に継承することを願って、国では11月1日から1週間を文化財保護強調週間とし、県では11月中を文化財保護強調月間と定めて、文化財保護思想の普及と啓蒙につとめています。

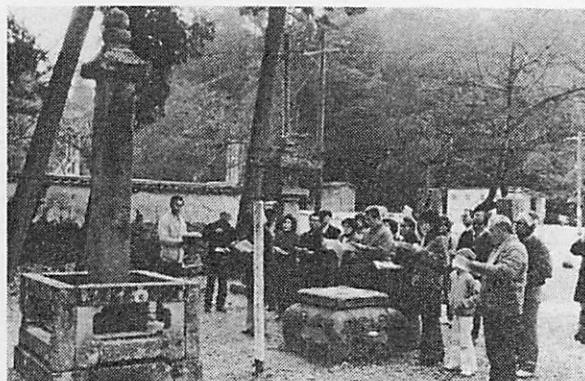
加古川市教育委員会では、この月間にちなみ文化財講演会を開催し、古代の播磨の歴史について理解を深め、認識をあらたにしていただこうと計画しました。

講師には、兵庫県文化財保護審議会委員であり、岡山理科大学教授の鎌木先生をお招きしてご講演をいただくことになっております。楽しく有意義なお話を聞かせていただけるものと期待しております。

会場が市立勤労会館のため、定員は150人となっております。一人でも多くご出席くださいますようご案内いたします。

記

日 時	昭和52年11月20日(日) 14時~16時
場 所	市立勤労会館 3階第5会議室
講 師	兵庫県文化財保護審議会委員 岡山理科大学教授 鎌木義昌先生
演 題	“古代の播磨”
主 催	加古川市教育委員会
後 援	加古川市文化財保護協会 加古川市文化財審議委員会



県下の文化財見学会（加西市）

下記日程表のとおり、それぞれ専門の講師先生をお招きして文化財教室を開設しています。

本年度から、加古川市文化財保護協会に協賛していただき、会場を市立勤労会館又は市民会館に移して実施いたしますので、定員は120人となっています。

なお、10回コースのうち貸切バスによる県下文化財見学会と、市内文化財踏査を各1回行ないます。

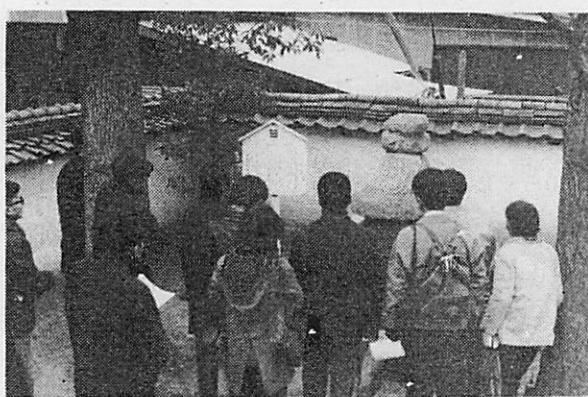
記

主 催	加古川市教育委員会
協 賛	加古川市文化財審議委員会 加古川市文化財保護協会

学習日程表

年月日	学習内容	講師名	学習場所
S.52 11.13	賀古駅家について	日本考古学協会員 今里幾次	勤労会館
11.20	古代の播磨	岡山理科大学教授 鎌木義昌	勤労会館
12.11	市内文化財踏査	○	加古川市平荘町文化財
12.25	播磨風土記の研究Ⅲ	加古川西高教諭 玉岡松一郎	市民会館
S.53 1. 8	石の宝殿とその周辺	神戸女子大学教授 浅田芳朗	勤労会館
1.22	兵庫県の郷土玩具	井上郷土玩具館主 井上重義	勤労会館
2.12	県下文化財見学会	○	未定
2.26	祭祀遺跡（砂部遺跡から）	東洋大附属姫路高校教諭 上田哲也	市民会館
3.12	古代播磨の英雄たち	兵庫県教育委員会 是川長	市民会館
3.26	野口落城と教信寺	教信寺住職 長谷川慶明	野口町教信寺

*なお、時間はいずれも午後1時30分から3時30分の2時間です。講師の都合により、日程を変更することがあります。



学級生の文化財踏査

本年度の文化財教室を 開設しています

例年、文化財保護強調月間の11月から翌年3月まで継続して文化財教室を開設しておりますが、本年度も